

第24回日韓中ジュニア交流競技会

報 告

期 日 平成28年8月22日（月）～29日（月）
会 場 中国 浙江省寧波市



第24回

日・韓・中ジュニアスポーツ交流競技会に参加して

総監督 永井 清二

(全国高体連テニス専門部近畿地区常任委員)



「強い勢力の台風9号は、暴風域を伴いながら8月22日(月)昼過ぎに関東に上陸する見込みで・・・」と気象予報士は幾度となく繰り返している。その日の夕刻に、第24回日・韓・中ジュニアスポーツ交流競技会参加者が成田のホテルに集合予定であった。強風と大雨のせいで首都圏の交通機関は混乱を来し、残念ながら選手達もその犠牲者となった。11名のチームの5名は、ほぼ半日以上を列車の中で過ごし、不安と苛立ちと空腹に苛まれた彼らと合流できたのはすでに22時を回っていた。次の日の早朝に空港へ移動することを考えれば、あまりにひどい仕打ちである。

翌日、重い体と荷物を引きずり空港に向かった。機上の人となり約3時間後、自身も初めて中国・上海浦東国際空港に降り立った。寧波華茂外国語学校日本語学科の女性ボランティアが通訳兼お世話係となり、彼女と共に空港ターミナルからバス乗り場へと移動する。全てが広くて、大きく、しかも暑い。これから寧波まで3時間のバス旅行なのだが、車窓の景色には都会と田舎のそれが入り交じり、しかもアジアという先入観からかどこか懐かしい感じがする。途中、世界最大規模約36Kmの杭州湾海上大橋を渡る時にはあまりの大きさに笑ってしまうほどであった。

いよいよ、バスは寧波市街地から中心部へと向かっていく。気のせいかもしれないが、交差点には必ず警官が配置され、一度も赤信号に遭遇せず、対向車線に比べると私たちの進行方向には余りに車が少ない。そういえば、上海からずっとパトカーがバスを先導している。ガイドに尋ねると、「少しの失礼もトラブルもないように、交通規制を行い、ホテルに向かうのは当然のことだ。」と真面目な顔で答えている。ようやくホテルに到着し、嚴重なセキュリティーを通り抜けて招かれた部屋は、びっくりするほど広くて美しく、我々も選手も感嘆の声しか出ない。寧波市や中国が、どれほど本気なのかがよくわかる「もてなし」であった。

翌日、午前中が練習時間として割り当てられていた。やはり昨日同様“国賓”並みの移動の後、会場に到着した。専用の休憩室はあるが、あって欲しい氷や冷えた水などが見当たらない。今日は練習日だからだそうだ。この辺は合理的というか、少々配慮に欠ける気がする。選手達はといえば、わずか2時間といえどもようやくボールを打って汗をかき、いつもの顔つきに戻ったようだ。

独特の香りを放つbuffスタイルの中華料理をいただいた後に、開会式へ向かった。この会場も驚くほど近代的で、式はこれでもかというほど盛り沢山であった。老若男女を問わず、多くの人たちによる中国歌劇(?)形式で寧波の歴史や、参加3カ国の紹介が行われた。所謂、友好的雰囲気は今日までだと区切りをつけるには良い開会式となった。

次の日から3日間かけて、韓国・寧波市・中国・日本の4チームで毎日1試合ずつラウンドロビンの対戦を行った。4シングルス&1ダブルス、シングルスはベストオブ3タイブレークセット、ダブルスはノーアド ベストオブ2タイブレークセットで1-1後は10ポイントのスーパータイブレーク方式で試合が行うと前日の監督会議で決定された。

結果、男子は韓国に5-0、寧波にも5-0、また最終戦でITF19位の選手を抱える中国には、シングルス2-2となりダブルスに勝負がかかった。そのダブルスではセットカウント2-0で勝利し、見事5年ぶりに優勝を成し遂げた。

女子は韓国にシングルス2-2の後、ダブルスは1セットオール後のファイナルセットタイブレークを12-10で奪い、3-2で勝利した。寧波には4-1、中国にはシングルス2-2となったためダブルスに勝負がかかり、そのダブルスではセットカウント0-2で負けてしまい、残念ながら2位になった。

「団体戦独特のチームワークは1朝1夕では難しいのでは」という我々の予想を、彼らは見事に裏切ってくれた。元々ポテンシャルが高い選手達は、チーム内での自分のポジションを良く理解しているし、十分な時間や環境が整っていなくとも、最大限のパフォーマンスを発揮するためはどうすれば良いのかも解っている。「プレイも応援も一生懸命」それは、どんな勝負にも負けたくないという、アスリートの根本的要素に起因しているに違いない。その勝利に対するどん欲さは、さすがトッププレーヤーであると感服した。

しかしながら、中国や韓国の選手には、日本人選手が持っていない武器がいくつかある。ここぞというときにポイントが取れるサブカと、打点が低くとも自らがボールをつぶしてしまうほどのスピードと角度のついたグランドストロークで仕掛け、その攻撃を継続できるテクニックだ。一見すると危うい側面もあるが、その攻撃力に絶対の自信があるからこそ、不利な状況であってもアグレッシブに攻めていく姿勢を貫けるのだろう。

残念ながら、これほど中身の濃い大会が実施されていながら、一般の観客はほとんどいない。あれほどセキュリティが厳重であれば、観客を受け入れる体制をとるのは難しいのはよくわかるが、隔離されている感覚は否めない。来年度日本開催の折には、是非日本だけでなく、東アジアでスポーツを頑張っている若者たちを、皆で応援できるような体制がとれないものかと切望している。

最後になりますが、第24回日韓中ジュニア交流競技会のスタッフの方々、選手派遣に関してご協力いただいた関係各位に改めて感謝し報告を終わります。

第24回日韓中ジュニア交流競技会に参加して

男子監督

佐藤 篤也（千葉県立八千代高等学校）



「なんて近代的な街並みなんだ！」

これが初めて中国を訪れた私の印象だった。上海・浦東（Pudong）空港に着陸する直前に飛行機の窓から外を眺めていると、整然と区画整理された土地に超高層マンションが建ち並び、しかも街路は緑に溢れている。中国の印象が全く変わった瞬間だった。会場のある寧波（Ningbo）市もご多分に漏れず、世界第4位の貿易港を抱えるこの街は、日明貿易の際の日本の指定港であった歴史を持つ。古い街並みを想像していたが、上海と同じように近代的で驚いた。大会のレフェリーや審判員そして警備の人々は気さくで、通訳やボランティアの大学生もとても丁寧な対応をしてくれたことが印象に残っている。

1 競技結果

25日 韓国戦 5-0で勝利

野口61,46,62 山尾60,61 今村75,60 蓮見75,60 野口・山尾63,62

26日 寧波戦 5-0で勝利

野口64,61 山尾62,61 今村60,60 蓮見76,61 今村・蓮見63,63

27日 中国戦 3-2で勝利

野口67,26 山尾62,63 今村75,61 蓮見16,26 野口・今村75,64

昨年のこの大会で男子チームは全ての対戦を僅差で終えたので、今年も韓国、中国チームを警戒していた。しかし、終わってみると今年の男子チームは強かった。野口がインターハイ優勝、全日本準優勝、その他の選手もインターハイ、全日本でベスト8と今回の選考大会である全国選抜から一段とレベルアップしていたのだ。私も選手も緊張の中で臨んだ韓国戦、山尾があっさり勝利し先の良いスタートを切ると、緊張の解けた選手たちも実力を遺憾なく発揮し、完勝で終えた。寧波戦は地元チームということで少し安心して臨んだが、街をあげてスポーツに力を入れていることもあり、オール中国かと思わせるほど力強いショットを繰り出す選手が多かった。No. 4の選手は13歳ということも驚きだった。そして迎えた中国戦は2勝同士の戦いであった。シングルスは2勝2敗とダブルス勝負になったが、ボレー力や安定感で日本チームが上回り、ストレートで勝利し、念願の1位となることが出来た。5年振りのことである。各選手のスキルの高さに関心し、安心して試合を見ることが出来た。特筆すべきは野口のテニスへの取り組みである。プロへの道を選ぶだけあり、タイムマネジメント、トレーニング等すべて自己管理し、中国戦でもITFランキング19位のWu Yibin相手にもう一步の戦いぶりであった。

2 運営・競技日程について

(1) テニスは大変時間のかかる競技である。9時30分にスタートして全てのポイントが終わるのが2時ということにはざらにある。今大会もそうであった。通訳には昼食の時間に間に合わなくなるので、連絡を入れてもらっていたが、ホテル側に通じておらず、食事に困ったことが2日あった。昨年は会場内のレストランで食事が出来たので心配もしなかったが、選手が食事をとれなくなることは避けて欲しい。

(2) セキュリティの関係もあると思うが、観客が一人も居ない中で競技だけを実施した。毎年のごとであるが、これだけの大きな大会である。周知し、多くの人々にみていただけたらと思う。

3 最後に

昨年の韓国に続き中国での大会に参加した経験は私自身の大きな財産となった。これからを担う選手との関わり、スポーツを通じた国際交流、中国の今。まさに「百聞は一見にしかず」であった。また、チームとしてのまとまりは集団を超えて出来るものだと思えて実感した。これまで参加の選手を育てていただいた関係者、この大会を運営している日本体育協会をはじめ、関係の方々に御礼を述べて、まとめとする。

第24回日・中・韓ジュニア交流競技会を終えて

女子監督

中村 聡利（浦和学院高等学校・埼玉県）



22日台風10号の影響を受け移動に12時間以上かかった生徒もいたが、23時頃無事に成田空港近くのホテルへ到着（ひと安心）。23日～28日の5日間は、中華人民共和国浙江省寧波市に滞在した。貿易が盛んな街ということもあり、様々な文化を取り入れた近代的気風が漂う様子が見られた。また、歴史では秦や漢の時代から日本との交流があり、曹洞宗の道元や臨済宗の栄西が訪れた街でもある。そんな街で今回の競技会が開催された。

別々の学校へ通う生徒達は普段から部活動に励んで活動しているため、日の丸を背負い一つの方向へ向かう準備に時間は要しなかった。全国春夏連覇を成し遂げた野田学園の山藤を主将に抜擢し持ち前の明るさと分け隔てなく話せる性格でチームを牽引し、海外選手との対戦が豊富で昨年も出場している浦和学院の松田が各国の戦力情報を提供。相生学院の堺は全てのボールに食らいつく強かな練習態度でみんなを感化させ、唯一の2年生で相山女学園の伊達は思いっきりの良さと個性溢れるパフォーマンスでチームを盛り上げた。

対戦国の戦力は、寧波No. 4と日本選手3人以外は全員ITFジュニアランキングポイントを持っていた。しかし、今までの経験でランキングがそのまま戦力の強弱を計ることはできないことを知っていたため、実力差がないことを選手に伝え自信を持たせた。しかし、日本選手と比較して差を感じることは、①身長が高い ②パワーがある（体格がいい）③身長とパワーを活かした武器（サーブ力とストローク力）④勝負所で仕掛けるのが早いを持っていることである。それに対抗するため、個々の実力で勝負できるようにベンチワークをして勇気を与え続けた。特に初日の韓国戦を勝ち切ることができれば、全勝するチャンスが見えてくると考えていた。

大会戦績

25日 大会初日 3勝2敗 韓国 シングルス2勝2敗 ダブルス1勝
26日 大会2日目 4勝1敗 寧波（開催地チーム）シングルス3勝1敗ダブルス1勝
27日 大会最終日 2勝3敗 中国 シングルス2勝2敗 ダブルス1敗

試合はシングルスが一気に4面展開の3セットマッチでスタート。気迫で戦ってくる韓国チームに対して堺と伊達が勝ち、松田と山藤は押し切られた。シングルス2勝2敗でダブルスにかかり、ファイナルセットマッチタイブレークに。韓国が9-8でマッチポイントを握ったが、攻めの姿勢を崩

さずに勝負を仕掛け松田／山藤ペアが12－10で勝利し、韓国チームに勝利を収めた。寧波戦は、競るゲームもあったが要所を抑えることができ危なげなく勝利した(No.3が一番強かったかも…)。4年ぶりの優勝を目指した中国戦は、伊達が勝ち山藤と堺はパワーに押されてリスクの高いショットを強いられ敗退。松田は長身から打たれるサーブやストロークに振り回されて食らいついていく試合となったが、相手の弱点を繰り返し攻めることで勝ちを掴んだ。韓国戦同様にシングルス2勝2敗でダブルスにかかったが、第1セットは先に5－3としたものの取り切れず6－7(4)で落とし、第2セットは流れを引き戻せないまま押し切られてゲームセットに。ダブルスは国際大会でも採用しているノーアド方式ファイナルセットマッチタイブレーク(10ポイント)で行い、韓国戦は2／4回・中国戦では2／6回のノーアドを取ることができた。もし、このノーアドをもっと取れていればと考えると、その差がサーブとリターンで勝敗を左右させたように感じる。

審判についてちょっと触れてみたいと思う。今大会は国際審判員の資格を有する人が主審をし、1人ですべてのラインをジャッジしていた。特に、反対側のサイドラインのジャッジは難しくミスジャッジもあった。テニスの試合でいいところは、他の競技と違って選手が相手ボールをジャッジすることができ、そこにフェアな心が育てられると思う。もし中立な立場の者が必要であれば、SCUのセルフジャッジにしてもいいのではないだろうか？

実力が拮抗し競る試合が多かった中で今後の課題を私なりにまとめると、①勝負できる武器②勝負できるフィジカル③善の自己主張(ジャッジに対する主張等)④自信を持つ⑤駆け引きを楽しむなどがある。特に⑤に関しては、勝利至上主義が見え隠れするこの世の中で、スポーツは「勝ち負けのつくゲーム＝本気の遊び」をしていることを忘れてはならないと感じる。緊張した場面で体が硬くなったりラケットが振れなくなることも当たり前のこと。「本気の遊び」と感じて楽しむことができるようになったら、勇気を振り絞った思いつきのいいプレーができるようになり、勝つことだけが全てにはならないと思う。その場面を経験できるのは、その場面に立つことを与えられた人にしか感じられない楽しみだろう。試合が終われば、ノーサイドなのだから。

スポーツを通じて勝つための努力をすることで、失敗や成功を体験しながら頑張ることを覚え、様々な人との出会いや友情によって考え方を学び自己を成長させることができている。我々にとってそれがテニスなんだろう。これからも、そんな経験を大切にして、「加油！파이팅！頑張ろう！」

「第24回 日中韓ジュニア交流競技会」に参加して

野口 莉央（神奈川県・湘南工科大附属高等学校）



まずはじめに「日中韓ジュニア交流競技会」に参加させて頂きありがとうございました。今回引率してくださった永井清二先生、佐藤篤也先生、中村聡利先生、そしてメンバーのみんなのおかげで楽しい中国遠征を過ごすことができ、感謝しています。ありがとうございました。

今回は初めて日本代表になれたので、高いモチベーションを持ってプレーすることができました。中国、韓国、中国の地元寧波代表チームの3チームと試合をしました。ITF ジュニアランキング順のオーダーだったので、全ての試合にS1として試合をすることができました。

初日の韓国戦では、相手のミスに助けられ1stセットは簡単に取りましたが、2ndセットは相手の攻めに少し引いてしまって落としました。しかしFinalセットは、チームの勝利も決まっていたので、楽な気持ちで普段通りのプレーをすることができ勝つことができました。ダブルスは、山尾君と初めてペアを組みました。出だしからリードできたので、お互い楽しくプレーできました。

2日目の地元寧波戦は序盤相手のサーブに苦しめられましたが、徐々に慣れてきてリターンから攻めることができ勝利しました。

最終日の中国戦ではITF ジュニアランキング19位の選手と試合をすることができました。自分の力がどれだけ通用するのか楽しみでした。1stセットは先に自分がブレイクしてリードする展開でしたが、サービスゲームで簡単なミスをしてしまい追いつかれ、タイブレイクになり落としてしまいました。2ndセットは先に攻めないといけないと思って、気持ちに焦りが出てしまい1stセットでは出なかったミスが出てしまい負けました。でもこの相手にも、互角に戦える手応えが掴めたことは収穫でした。ダブルスは2-2でチームの勝敗がかかった試合でしたが、ペアの今村君と思い切りよくプレーを楽しめた結果、勝つことができました。

日本代表は3勝して優勝することができました。初めてのチームメイトと団結して戦い、優勝できてとても嬉しかったです。またこのチームでプレーしたいと思いました。

この中国遠征では、中国、韓国代表の同年代のトップ選手と国別の団体戦という形で試合をすることができ、なかなか味わえない特別な経験をするすることができました。自分の課題や通用したところも分かり、その面でも貴重な経験となりました。この経験をいかしてこれからもっと努力して強くなろうと思いました。ありがとうございました。

「第24回日・韓・中ジュニア交流競技会を終えて」

山尾 玲貴（福岡県・柳川高等学校）



今回「第24回日・韓・中ジュニア交流競技会」に参加させて頂きありがとうございました。開催地が中国ということで、中国に行くのはとても楽しみでした。

1日目は移動日で2日目は試合会場で練習することができ、しっかり調整することができました。練習後には開会式がありました。

3日目からは試合が始まり、韓国選手と試合をしました。粘り強く自分のテニスをすることができ、勝利することができました。そしてダブルスでは、野口君と組んで勝利することができて良かったです。

4日目は開催地の寧波の選手と試合をしました。相手選手のストロークにパワーがあり、始めは思うようなプレーができませんでしたが、中盤から自分から攻撃するようにし、良いプレーができ始めて勝利することができました。

5日目は中国選手と試合をしました。中国も日本も既に2勝していて、勝った方が1位になるのでとても緊張しました。中国選手のサーブは速くて最初は返すことで精一杯でしたが、中盤から良いリターンが返るようになり、ストローク戦では主導権を握ることができて勝利することができました。シングルスは2勝2敗で並び、勝敗はダブルスにかかりました。ダブルスには野口君・今村君ペアが出場し、中国ペアに勝ち1位になることができとても嬉しかったです。

海外での試合は今回初めてで、最初不安もありましたが、全勝し1位になることができよかったです。海外選手と試合をすることで、たくさんの経験をすることができました。そして課題も多く見つけることができました。今回中国で過ごした1日1日はとても貴重な時間でした。

最後になりましたが、今大会をサポートしてくださった大会関係者、日本体育協会、高体連テニス専門部の皆様、引率してくださった先生方、地元の方々、チームの皆様ありがとうございました。今回経験できたことを今後のテニス人生に活かせるように、日々努力していきたいです。本当にありがとうございました。

今村 昌倫（大阪府・清風高等学校）



今回、「日・韓・中ジュニア交流会」に参加させて頂き本当にありがとうございました。そして、引率して下さった永井先生、佐藤先生、中村先生、関係して下さった皆様、本当にありがとうございました。先生方のおかげで初の中国遠征でも何の不自由もなく楽しく過ごすことができました。

試合ではナンバー3として出場し、気楽に楽しく戦うことができました。

1 日目の韓国代表戦では、相手の球のスピードが速くて、1stセットでは少し固さもあり苦戦をしました。しかし、粘り強く我慢しながらボールに喰らいつき、1stセットを取ると相手の集中力も切れ、2ndセットは簡単に取り勝つことができました。チームの皆も勝利し、全勝で韓国代表を倒しとてもいい滑り出しでした。

2 回目は寧波市代表チームとの対戦でした。私は最後まで集中力を切らさず自分のテニスを貫くことができ、簡単に勝利しました。最も速く試合が終わりとても嬉しかったです。そして蓮見選手とダブルスを組み出場しました。とても楽しく戦うことができ、昨日同様全勝でこの日を終わることができました。

最終決戦は中国代表チームとの戦いでした。私は相手の態度やミスジャッチなどで少しイライラし、集中できず少し苦戦しました。自分のテニスをするのができず、内容的にも納得のいかない、悔いの残る試合となりました。何とか勝利はしたものの自分の悪いところが出てしまい、反省しました。チームとしてはNO.2の山尾選手が勝ち、NO.1の野口選手、NO.4の蓮見選手が負けてしまい、決着はダブルスにかかるというとても面白い展開になりました。私はこの日本チームの勝利を左右するダブルスに野口選手と出場しました。相手の中国代表選手はNO.1とNO.3が出てきました。NO.1の選手はITFランキング19位で、世界のトップジュニアにどれほど自分のテニスが通用するのかすごく楽しみでした。結果はストレートで勝利し、とても自信になりました。

日本代表チームは全てのチームに勝利して1位になることができました。優勝がかかった最終戦のダブルスで勝った瞬間、本当に嬉しくて、このチームメイトで戦うことができて良かったと感じました。

今回の遠征で、中国、韓国のトップの選手達と戦うこともでき、中国の文化や食事などに触れることもできました。食事は正直あまり口には合わなかったですが、本当に素晴らしい経験をさせて頂きました。こんな経験は一生を通じてあまりできない事だと思います。日本代表として「日・韓・中ジュニア交流会」に選んで頂きありがとうございました。この1週間、皆様のお陰でとても楽しく、とても貴重な日々を過ごすことができました。この素晴らしい経験を活かして更に自分を成長させていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

第24回日中韓ジュニア交流競技会を終えて

蓮見 亮登（千葉県・東京学館浦安高等学校）



まず初めに「第24回日中韓ジュニア交流競技会」に参加させて頂きありがとうございました。今回僕は初めて日本代表として海外遠征に行き、海外の選手と戦ったり、他国の食事や文化などに触れることができ、とても良い経験をする事ができました。そしてチームの皆とも仲良く楽しく過ごす事ができたので良かったです。

1日目は移動日で、2日目から試合会場で練習しました。僕以外の3人は全国トップクラスの選手だったので、普段とはまた違った緊張感の中で練習する事ができて、とても良い刺激になりました。

8月25日、初戦は韓国でした。試合方式は3セットマッチでした。シングルス1~4を行った後でダブルスという進行です。僕はシングルス4で出場しました。シングルスでは少し緊張していましたがポイントを取るごとに少しずつ緊張がほぐれてきて、7-5,6-0で勝つことができました。チーム全員が勝利する事ができ、良いスタートを切ることができました。

8月26日は寧波戦で午後3時から試合が始まりました。この試合ではシングルスとダブルスに出場しました。シングルスではファーストセットからお互いサービスキープが続き、終始相手にリードを許しましたが7-6(1),6-1で勝つことが出来ました。ダブルスは今村昌倫君とのペアで、練習も少ししかできなかったのですが、試合が始まるとうまく息が合い6-3,6-3で勝つことができました。この日もチーム全員が勝利できて良かったです。

8月27日は中国戦でした。中国は今大会一番の強敵で、足の速さや、ボールの質や威力に圧倒されて、自分は1-6,2-6で負けてしまいました。ですが、メンバーの野口君や山尾君や今村君が勝ってくれて、中国に3-2で勝つことができました。チームの皆には本当に感謝したいです。

8月28日は午前中に寧波市の観光スポットである「天一閣」に行ってきました。とても古い歴史を感じることができました。そして午後はスーパーに連れて行って頂いて、お土産などを買いました。そして8月29日に帰国しました。

今回の遠征で、韓国と中国の高校生たちとテニスを通じて交流ができたことは、これからのテニス人生の中で、とても役立つことだったと思います。そして今自分に何が足りないのか改めて分かりました。

最後になりましたが、大会で一緒に戦った代表メンバーの皆さん、そして日本体育協会、高体連テニス専門部、通訳など関係者の方々、引率して頂いた永井監督、佐藤監督、中村監督、貴重な経験をさせて頂き心から感謝します。ありがとうございました。

第24回日中韓ジュニア交流競技会を終えて

松田 美咲（埼玉県・浦和学院高等学校）



まず初めに、このような日中韓ジュニア交流競技会というとても素晴らしい大会に、2年連続参加させていただきありがとうございました。

2年連続ということもあって、去年よりは緊張感が少なく、楽しみは多かったです。そして去年負けてしまった試合がある分、今年は全勝するという思いを強く持ち挑みました。

1戦目の韓国との試合では、ポイントが取れなくなり、自ら焦ってしまいミスをするという悔しい敗戦をしてしまいました。

2戦目の寧波との試合では、前日の試合の反省点を生かし落ち着いたプレーをすることができ、勝利しました。

3戦目の中国との試合では、簡単なミスが許されないほどの接戦でした。その中でも相手の早い展開にもついて行くことが出来、相手が嫌がっていることを探りながらフルセットに持ち込み、勝ちきることができました。

韓国戦と中国戦にダブルスで出場しましたが、流れを掴むのが難しく、なかなか連続でポイントがとれませんでした。しかし、これぞダブルスというポイントの取り方ができた部分も多く、試合を楽しむ事が出来て良かったです。

そして、初めてのチームだったのですが、みんなで団結し、応援し、励ましあいながら対戦することができました。

この遠征で韓国、中国の選手は大事なポイントをしっかりと取りきれて、流れを掴むのがうまいと感じました。私は、流れをつかみたい時につかめないところがあるので、今後その部分を修正していきたいです。

最後になりますが、この大会は昨年以上に私にとってとても素晴らしい経験になりました。高体連の先生方、この大会を運営するにあたって携わってくださった方々、チームのみんなに心から感謝しています。これからもこの気持ちを忘れずに頑張っていきます。本当にありがとうございました。

「日・韓・中ジュニア交流競技会を終えて」

山藤 真帆（山口県・野田学園高等学校）



まず初めに、日・中・韓ジュニア交流競技会に参加させて頂きありがとうございました。

私は、海外で試合することが初めてで、不安と緊張でいっぱいでした。中でも、最初の韓国戦では、シングルス2として出場し、緊張のあまり手が震え、自分の思い通りのテニスができず負けてしまいました。チームとしては2-2とダブルスに勝負がかかり、そこで勝てば日本の勝利となる試合で、即席ペアでしたが接戦の末勝つことができました。チームを勝利に導くことができ、高校の団体戦とは違う日本代表として勝った喜びが湧いてきました。

寧波戦では、初日よりも一人一人が意識を高く持ち、4-1で日本が勝ちました。

そして最終戦は中国。ほとんどの選手が世界大会に出場しているチームとの戦いです。自分から挑戦していくという思いで戦い、1stセットは相手よりも多くボールを返球し、4-4まで良い流れでしたが、相手もコースを突くのが上手く、自分の武器である積極的に前に出る攻撃が封じられ4-6で1stセットを落としてしまいました。2ndセットは気持ちを切り替えていこうとしたのですが、相手のコースを突く精度が増し、自分のテニスが出来ず0-6で落として負けてしまいました。

ダブルスでは、リードする場面もありましたが、相手のダブルスの経験とコンビネーションがうまく、負けてしまいました。その結果、日本は2位となりました。

今回の交流戦で、自分のテニスが世界で通用しないという訳ではないし、もっとこうしたらポイントを取れるのではないか？など様々な戦略を考えることができ、これからの自分のテニス人生において大きな課題が見つかりました。この経験を活かし、一層これからの練習に励み、自分の夢へ突き進んでいきたいと思います。

最後になりましたが、この大会の関係者、引率して下さった先生方、貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

堺 愛結（兵庫県・相生学院高等学校）



まず初めに、「第24回日・韓・中ジュニア交流競技会」に参加させて頂きありがとうございました。私は日本代表として選考されて嬉しかったのですが、この大会が初めての海外遠征だったのと、私が代表で良いのかと不安で一杯でした。ですが、引率して下さった先生方やメンバー皆の和やかなムードで不安を和らげてもらい、とても楽しい時間を過ごすことができました。

前泊のため東京に向かう途中、台風の影響で半日電車の中で過ごし、1日目も飛行機とバスの長旅でとても大変でした。

2日目は中国の歴史を学べた開会式に先立ち、2時間程の短い練習しかできませんでした。いざコートに立つと、日本とは違う海外の雰囲気での練習は緊張していつものプレーができませんでした。中村先生にアドバイスを貰い、調子を上げることができました。

3日目から試合で、韓国が初戦でした。あまり緊張はせず、自分のテニスができ勝利することができました。

4日目は地元の寧波との対戦でした。前半、相手の攻撃に押され弾かれてばかりでしたが、中盤から中村先生のアドバイスを活かし、自分から攻めていくテニスをやり抜きセカンドセットを取ることができました。最後は相手がギアを上げたことに、自分が追っていくことができずに負けてしまいました。その後、伊達さんとダブルスを組み、激戦をものにすることができました。それは、男女のメンバー全員が声を出し応援してくれたお陰だったと思います。

5日目は中国戦でした。昨日の反省を活かし頑張ろうと思い挑みましたが、相手のストロークは力強く自分のテニスができずに負けてしまいました。仲間の勝利で2-2になり、最後のダブルスでも全員一丸となり応援しました。結果は負けてしまいましたが、この短期間で全員がまとまることのできたのはすごく驚きました。

交流試合が終わり、天一閣に観光に行きました。午後はショッピングに行きお土産を買いました。初めて日本円以外のお金を使っての買い物は楽しかったです。

この1週間、高校のトップレベルのメンバーたちと過ごすことができ、今までにない多くの刺激を貰いました。私はこの素晴らしい経験で、またより一層テニスを頑張りたいと思いました。

最後に高体連の方々、引率の先生方、大会の関係者の皆様、このような体験をさせて頂き心から感謝しています。本当にありがとうございました。

「第 24 回 日中韓ジュニア交流競技会」に参加して



伊達 摩紘（愛知県・椋山女学園高等学校）

今回、日・韓・中ジュニア交流競技会に参加させていただき、ありがとうございました。3日間、海外の選手と試合ができたこと、日本代表として責任感を持ってプレーできたこと、日本の勝利に貢献できたことをすごく嬉しく思います。

1日目は韓国の選手と試合しました。1st セットはコートにまだ慣れず、相手にもうまく対応できなくて、自分のミスが多かったです。でも、今まではそこで自分が崩れてセットを取られてたけど、今回は我慢して流れをしっかりとつくることができたので良かったです。2nd セットはその流れで6-1で勝ちきることができました。

2日目は地元の寧波の選手と試合しました。シングルスは6-2、6-2で1日目よりも自分らしいプレーができた試合でした。相手は自分より体格がよくて、ボールが甘くなるとすぐ攻められるので、スライスを使ったりボールに緩急をつけて相手のタイミングをはずすなど、落ち着いてプレーすることができました。ダブルスは初めて組んだけど、お互いに声かけあって楽しく試合することができました。私はダブルスが苦手で、試合前や試合中は不安でいっぱいでしたが、みんなの応援もあってしっかり勝ちきれたし、アドバイスもたくさんいただいたので、今回の経験をこれからの試合でいかしたいと思います。

3日目は中国の選手と試合しました。1st セットは相手も本気じゃなくて6-0でとれたけど、2nd セットはギアをあげてきて、お互いサービスゲームキープでなかなかブレイクできなくて、タイブレークになりました。相手のサーブが良くて、自分から仕掛けようとしすぎて、自分のミスが増えてブレイクすることができませんでした。2nd セットは全体的に相手のミス待ちしていたので、自分のプレーでしっかり流れをつかめたら良かったと思いました。

3日間試合して、全体的に自分本来のプレーはあまりできませんでした。相手の荒いプレーにつられて、自分も荒くなっていたなと思います。海外の選手は自分より体格が良い選手が多いので、そういう選手とも戦っていけるように自分のプレーを磨いていきたいです。そして、どんな相手にも自分のプレーが通用するようなテニスをしたいです。

最後になりましたが、全国高体連テニス専門部をはじめ、永井先生、佐藤先生、中村先生、この大会に協力してくださった寧波の方々、本当に良い経験ができました。ありがとうございました。



Group BOYS 1st Tie		Team		Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 5-8		KOREA	vs	JAPAN	0-5	JAPAN
Time	Match	Players		Player	Result	Umpire
Starting at 9:00	Si1	Im Seongtaek, (1)	vs	Noguchi Rio, (1)	16,64,26	Zheng Wei
	Si2	Lim Minseob, (2)	vs	Yamao Tamaki, (2)	16,06	Xu Yong
	Si3	Lee Jeongheon, (3)	vs	Imamura Masamichi, (3)	57,06	Zhu Jian
	Si4	Bae Sangwoo, (4)	vs	Hasumi Akito, (4)	57,06	Liu Qiang
	Do	Im Seongtaek, (1) and Lee Jeongheon, (3)	vs	Noguchi Rio, (1) and Yamao Tamaki, (2)	36,26	Xu Yang

Group BOYS 1st Tie		Team		Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 5-8		CHINA	vs	NINGBO	5-0	CHINA
Time	Match	Player		Players	Result	Umpire
Starting at 15:00	Si1	Wu Yibing, (1)	vs	Bu Yunchaokete, (1)	62,63	Zheng Wei
	Si2	Lv Chengze, (2)	vs	Yu Xingang, (2)	61,61	Xu Yong
	Si3	Wang Chukang, (3)	vs	Yu Chengyang, (3)	75,62	Zhu Jian
	Si4	Liu Hu, (4)	vs	Zheng Zhan, (4)	63,62	Liu Qiang
	Do	Lv Chengze, (2) and Liu Hu, (4)	vs	Yu Xingang, (2) and Zheng Zhan, (4)	61,62	Xu Yang

Group GIRLS 1st Tie		Team		Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 1-4		KOREA	vs	JAPAN	2-3	JAPAN
Time	Match	Players		Player	Result	Umpire
Starting at 9:00	Si1	Lee Eunhye, (1)	vs	Matsuda Misaki, (1)	75,62	Fu Lu
	Si2	Park Mijeong, (2)	vs	Santo Maho, (2)	60,75	Zhou Hai Xiong
	Si3	Kim Soonin, (3)	vs	Sakai Ayu, (3)	16,26	Wu Yong Jun
	Si4	Noh Hyeon, (4)	vs	Date Mahiro, (4)	57,16	Xu Jia Wei
	Do	Lee Eunhye, (1) and Park Mijeong, (2)	vs	Matsuda Misaki, (1) and Santo Maho, (2)	26, 63, 10-12	Huang Huan Yu

Group GIRLS 1st Tie		Team		Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 1-4		CHINA	vs	NINGBO	5-0	CHINA
Time	Match	Player		Players	Result	Umpire
Starting at 15:00	Si1	Yuan Yue, (1)	vs	Liu Meiting, (1)	62,63	Fu Lu
	Si2	Liu Yanni, (2)	vs	Ye Rouli, (2)	61,61	Zhou Hai Xiong
	Si3	Guo Hanyu, (3)	vs	Xiao Zhenghua, (3)	64,62	Wu Yong Jun
	Si4	Jiang Xinyu, (4)	vs	Zhou Yi, (4)	62,60	Xu Jia Wei
	Do	Jiang Xinyu, (4) and Yuan Yue, (1)	vs	Ye Rouli, (2) and Xiao Zhenghua, (3)	62,60	Huang Huan Yu

Referee's signature

Wang Jing



Group BOYS 2nd Tie		Team		Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 5-8		CHINA	vs	KOREA	5-0	CHINA
Time	Match	Player		Players	Result	Umpire
Starting at 9:00	Si1	Wu Yibing, (1)	vs	Im Seongtaek, (1)	64,61	Xu Yong
	Si2	Lv Chengze, (2)	vs	Lim Minseob, (2)	61,60	Liu Qiang
	Si3	Wang Chukang, (3)	vs	Lee Jeongheon, (3)	36,63,61	Huang Huan Yu
	Si4	Liu Hu, (4)	vs	Bae Sangwoo, (4)	63,60	Zhu Jian
	Do	Wu Yibing, (1) and Lv Chengze, (2)	vs	Im Seongtaek, (1) and Bae Sangwoo, (4)	60,64	Zheng Wei

Group BOYS 2nd Tie		Team		Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 5-8		JAPAN	vs	NINGBO	5-0	JAPAN
Time	Match	Player		Players	Result	Umpire
Starting at 15:00	Si1	Noguchi Rio, (1)	vs	Bu Yunchaokete, (1)	64,61	Xu Yong
	Si2	Yamao Tamaki, (2)	vs	Yu Xingang, (2)	62,61	Liu Qiang
	Si3	Imamura Masamichi, (3)	vs	Yu Chengyang, (3)	60,60	Huang Huan Yu
	Si4	Hasumi Akito, (4)	vs	Zheng Zhan, (4)	76(1),61	Zhu Jian
	Do	Imamura Masamichi, (3) and Hasumi Akito, (4)	vs	Bu Yunchaokete, (1) and Yu Xingang, (2)	63,63	Zheng Wei

Group GIRLS 2nd Tie		Team		Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 1-4		CHINA	vs	KOREA	5-0	CHINA
Time	Match	Player		Players	Result	Umpire
Starting at 9:00	Si1	Yuan Yue, (1)	vs	Lee Eunhye, (1)	46,63,60	Xu Yang
	Si2	Liu Yanni, (2)	vs	Park Mijeong, (2)	62,60	Zhou Hai Xiong
	Si3	Guo Hanyu, (3)	vs	Kim Soonin, (3)	60,62	Xu Jia Wei
	Si4	Jiang Xinyu, (4)	vs	Noh Hyeon, (4)	63,63	Wu Yong Jun
	Do	Liu Yanni, (2) and Guo Hanyu, (3)	vs	Lee Eunhye, (1) and Park Mijeong, (2)	62,64	Fu Lu

Group GIRLS 2nd Tie		Team		Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 1-4		JAPAN	vs	NINGBO	4-1	JAPAN
Time	Match	Player		Players	Result	Umpire
Starting at 15:00	Si1	Matsuda Misaki, (1)	vs	Liu Meiting, (1)	64,61	Xu Yang
	Si2	Santo Maho, (2)	vs	Ye Rouli, (2)	62,61	Zhou Hai Xiong
	Si3	Sakai Ayu, (3)	vs	Xiao Zhenghua, (3)	36,64,26	Xu Jia Wei
	Si4	Date Mahiro, (4)	vs	Zhou Yi, (4)	62,62	Wu Yong Jun
	Do	Sakai Ayu, (3) and Date Mahiro, (4)	vs	Ye Rouli, (2) and Xiao Zhenghua, (3)	76(5),63	Fu Lu

Referee's signature

Wang Jing



Group BOYS 3rd Tie		Team	vs	Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 5-8		CHINA	vs	JAPAN	2-3	JAPAN
Time	Match	Player		Players	Result	Umpire
Starting at 9:00	Si1	Wu Yibing, (1)	vs	Noguchi Rio, (1)	76(1),62	Zheng Wei
	Si2	Lv Chengze, (2)	vs	Yamao Tamaki, (2)	26,36	Xu Yang
	Si3	Wang Chukang, (3)	vs	Imamura Masamichi, (3)	57,16	Xu Yong
	Si4	Liu Hu, (4)	vs	Hasumi Akito, (4)	61,62	Liu Qiang
	Do	Wu Yibing, (1) and Wang Chukang, (3)	vs	Noguchi Rio, (1) and Imamura Masamichi, (3)	57,46	Fu Lu

Group BOYS 3rd Tie		Team	vs	Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 5-8		KOREA	vs	NINGBO	3-2	KOREA
Time	Match	Player		Players	Result	Umpire
Starting at 14:00	Si1	Im Seongtaek, (1)	vs	Bu Yunchaokete, (1)	67(6),26	Zheng Wei
	Si2	Lim Minseob, (2)	vs	Yu Xingang, (2)	64,16,46	Huang Huan Yu
	Si3	Lee Jeongheon, (3)	vs	Yu Chengyang, (3)	61,46,64	Xu Yong
	Si4	Bae Sangwoo, (4)	vs	Zheng Zhan, (4)	62,62	Liu Qiang
	Do	Lee Jeongheon, (3) and Bae Sangwoo, (4)	vs	Bu Yunchaokete, (1) and Yu Xingang, (2)	63,64	Huang Huan Yu

Group GIRLS 3rd Tie		Team	vs	Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 1-4		CHINA	vs	JAPAN	3-2	CHINA
Time	Match	Player		Player	Result	Umpire
Starting at 9:00	Si1	Yuan Yue, (1)	vs	Matsuda Misaki, (1)	67(6),61,36	Zhu Jian
	Si2	Liu Yanni, (2)	vs	Santo Maho, (2)	64,60	Zhou Hai Xiong
	Si3	Guo Hanyu, (3)	vs	Sakai Ayu, (3)	63,62	Xu Jia Wei
	Si4	Jiang Xinyu, (4)	vs	Date Mahiro, (4)	06,67(4)	Wu Yong Jun
	Do	Guo Hanyu, (3) and Jiang Xinyu, (4)	vs	Matsuda Misaki, (1) and Santo Maho, (2)	76(4),63	Xu Yang

Group GIRLS 3rd Tie		Team	vs	Team	Tie Result	Winner of Tie
Court 1-4		KOREA	vs	NINGBO	3-2	KOREA
Time	Match	Players		Players	Result	Umpire
Starting at 14:00	Si1	Lee Eunhye, (1)	vs	Liu Meiting, (1)	60,64	Zhu Jian
	Si2	Park Mijeong, (2)	vs	Ye Rouli, (2)	60,61	Zhou Hai Xiong
	Si3	Kim Soonin, (3)	vs	Xiao Zhenghua, (3)	36,57	Xu Jia Wei
	Si4	Noh Hyeon, (4)	vs	Zhou Yi, (4)	63,63	Wu Yong Jun
	Do	Lee Eunhye, (1) and Park Mijeong, (2)	vs	Ye Rouli, (2) and Xiao Zhenghua, (3)	62,36,7-10	Fu Lu

Referee's signature

Wang Jing